

第 2 9 回

秀麗富嶽十二景写真コンテスト

入選作品

最優秀賞

宝石の町 小俣 仁（山梨県都留市） 岩殿山



川隅功氏講評

大月市内の最もポピュラーな富士山ビューポイント岩殿山からの撮影のようです。桜越しに富士山を望む名所ですが、作者は、夕方に登られ大月市街地の夜景と共に見事な構図で纏められています。クリアな表現の為、冬の寒い日を選んだと思われます。その狙いが見事にプリントに表現されています。高画素で高感度に強い機材との相乗効果で、非常にシャープで素晴らしい仕上げの作品です。 題名もおしゃれです。

推薦

初夏の頂き

天野 喜夫（神奈川県相模原市）

ハマイバ



川隅功氏講評

梅雨時にも関わらず、青空の快晴日を狙っての撮影で、気持ちがスカッと晴れる気持ちにさせてくれる清々しい写真です。中判のデジタルカメラの使用で、ハイライト部分からシャドウ部まで繊細に表現されています。

推薦

幻想の富士 星野 郁男（山梨県上野原市） 奈良倉山



川隅功氏講評

モノクロの写真で初めての受賞作品です。富士山の中腹に広がる雲海と、7から9合目位に広がる雲のディテールが素晴らしいと思います。
カラーではないモノトーンの世界に引き込まれます。

特選

晩秋 池田 浩樹（山梨県大月市） 牛奥ノ雁ヶ腹摺山



川隅功氏講評

セピア調の落ち着いた色合いが素晴らしいと思います。絵柄的にはすごくシンプルですが、晩秋の季節感が色調から感じられる落ち着いた作品です。気持ちが安らぎます。

特選

雪月夜 竹端 榮（神奈川県相模原市） 百蔵山



川隅功氏講評

デジタルカメラの性能がアップして、このような時間帯に容易に写真が撮れるようになりました。前景の雪を被った樹々の間から富士山を見せていますが、鍵穴効果が存分に活かされた作品です。

特選

風強く 高津 秀俊（山梨県大月市） 岩殿山



川隅功氏講評

富士山の上空には頻繁に奇妙な雲が発生する。この雲もとても珍しいと思います。タイトルにあるように風が強かったと想像できます。雲の影が適度に富士山に掛かったチャンスにシャッター押したと思われます。

白旗史朗賞

秋の彩 小林 大貴（山梨県甲府市） ハマイバ



川隅功氏講評

風景写真の王道の作画です。前景のベストタイミングの紅葉・中景・そして遠景に富士山を配置したフレーミングは、奥行感を感じますし、隙がありません。前景の紅葉への光もベストな状況で撮影されています。美しい光景を若い方の色彩感覚で仕上げられた作品です。

入賞

瞬光に染まる 小俣 仁（山梨県都留市） 雁ヶ腹摺山



川隅功氏講評

風景写真の王道である前景・中景・遠景としっかりしたフレーミングで撮影されています。王道な構図プラスαとして、前景のみに射す一瞬の光が印象的です。

入賞

秋彩の彼方に 高津 秀俊（山梨県大月市） 姥子山



川隅功氏講評

この写真も王道である前景・中景・遠景としっかりしたフレーミングで撮影されています。遠景の富士山に鑑賞者の視線を誘導させる仕掛けがそこに有ると思います。

入賞

朝陽を浴びて

早野 未明（東京都調布市）

牛奥ノ雁ヶ腹摺山



川隅功氏講評

柔らかい優しい光の日に撮影されています。インパクトがある光線状態でない朝にいかに作品に纏めるかを教えてくれる作品だと思います。

入賞

朝霧晴れゆく 山下 政明（神奈川県秦野市） 小金沢山



川隅功氏講評

山の天気は変わりやすく雲や霧の動きも早いものです。この写真は、一瞬にして霧の動きにより絵が変わってしまうことを想像させてくれる作品だと思います。ナイスシャッターチャンスでした。

入賞

秋景

小俣 仁（山梨県都留市）

大蔵高丸



川隅功氏講評

秋の彩の樹を画面半分以上を占める構図で撮られたので、季節感が十二分に感じられる写真です。縦構図にしたことで、より一層力強い作品になりました。

入賞

草原を走る

大戸 康世（山梨県大月市）

ハマイバ



川隅功氏講評

二人のランナーを前景に配したフレーミングで撮影された写真です。今までの入賞作品には人物を入れた作品が無かったので、新鮮さが感じられます。富士山を横目で見て、気持ちよい走りができたとと思います。

入賞

新緑迫る 池田 浩樹（山梨県大月市） 滝子山



川隅功氏講評

この季節は、色合いがある被写体が乏しく、写真にするのが難しいです。前景の緑濃い山々の起伏が見事に表現されたことにより、色彩的に単調な季節を見事に纏められた作品だと思います。

入賞

青空に輝く霊峰 愛澤 和弘（埼玉県所沢市） 笹子雁ヶ腹摺山



川隅功氏講評

10月中旬の秋の雲がとても魅力です。作者もその雲に注目されて、やや長めのレンズで、引っ張って撮影したようです。手前の山との圧縮効果で印象深い作品に仕上げられていると思います。

入賞

天体ショー

村上 敏幸（山梨県大月市）

奈良倉山



川隅功氏講評

富士山上空の流星が見事に映り込んでいます。流星が発生しそうな方角で何枚も撮影した駒の1枚だと思われます。フィルムカメラでは、挑戦すらできなかった光景です。益々このような写真が増えていくでしょう。

入賞

春の訪れ 石井 晃（山梨県大月市） 扇山



川隅功氏講評

赤い花は、つつじだと思いますが、人の手が入らないつつじは、大きくなると聞きますが、このつつじも例外ではないようです。望遠レンズでの撮影だと思いますが、圧縮効果により、迫ってくるようなダイナミックな富士山が表現できていると思います。

入賞

透ける街明かり

伊世井 恒男（神奈川県足柄上郡）

百蔵山



川隅功氏講評

人工の街明かりの光が、手前の霧の部分まで届き、オーロラのような光景が広がっています。富士山の中腹にも横に棚引く雲が発生して、幾種の雲が折り重なる美しい一枚です。下部に黒い山を少し入れたことにより、画面が引き締まりました。

入賞

岩殿テラスからの展望 境 実（神奈川県相模原市） 岩殿山



川隅功氏講評

市街地が一面の霧に覆われた光景ですが、画面中央に斜め直線に走る光は、道路でしょうか？周りの霧の部分が多く取り入れたフレーミングですが、この斜めの光は存在感がとてもあります。幻想的なおしゃれな雰囲気一枚です。

入賞

斜光を浴びて

小林 忠（山梨県甲府市）

お伊勢山



川隅功氏講評

雪が薄っすらと積もった翌朝の朝の風景だと思います。麓の集落にはまだ光が射していませんが、徐々に朝の赤い光が射し広がってゆく美しい光景です。集落を画面下部に少し入れたことにより、生活と自然との共生が表現できたと思います。

入賞

立ち登る雲 愛澤 和弘（埼玉県所沢市） 高畑山



川隅功氏講評

富士山の中腹から頂上に向かって同じような形の雲が立ち昇る形が面白いと思います。この先頂上が隠れてしまいそうな動きです。隠れる前のシャッターチャンスを手早く捉えることができました。下部に黒い山を少し入れたことにより、画面が引き締まりました。

入賞

奇雲の下に 大戸 康世（山梨県大月市） 九鬼山



川隅功氏講評

この写真も、富士山上空の奇妙な雲をフレーミングした作品ですが、こうしてみると、富士山上空には数えきれない程の雲が出現することの事実が再認識されます。毎日のように違う一期一会の世界です。

入賞

晩秋

三枝 秀雄（千葉県君津市）

高川山



川隅功氏講評

前景の草木は、晩秋と言うより本格的な厳冬期の直前の初冬の雰囲気です。晴天の天気が安定している日の午前中の平凡な光線状態ですが、その時の光景を素直に撮影されたことが良かったと思います。

入賞

滝雲流れる 山下 政明（神奈川県秦野市） 本社ケ丸



川隅功氏講評

画面下部斜めの動きのある雲と、富士山麓の雲海雲、上空の雲と、それぞれ異なる表情の雲に囲まれた初秋の富士山の姿が素敵です。手前の雲には部分的に光が射し、動きが感じられるトーンになったのも良かったと思います。

入賞

朝日に染まる樹氷　　谷口　一只（埼玉県加須市）　　清八山



川隅功氏講評

手前の樹氷に赤い朝日が射してとても美しい光景です。樹形が丁度 U の字の中に富士山を配置した撮影ポジションも適切でした。目まぐるしく光線状態が変化する時間帯に落ち着いて前景をチョイスしたことが良かったと思います。